

第4回 住民説明会要旨

第3回目の住民説明会において、建設位置を大幅に移動させ、ヒオウギアヤメの再生地を大きく保全する案をご提案し、ご賛同をいただきました。第4回目は、その上で、具体的な建築の内容と展示のプラン、外構整備の案について御説明し、ご意見を伺ったものです。

開催日時等

平成23年2月28日(月) 18:30~20:30 網走市農村環境改善センター

説明者

環境省釧路自然環境事務所 次長 則久雅司、野生生物企画官 渡辺洋之、川湯自然保護官 黒江隆太
北海道環境生活部環境局自然環境課 本間主査、嶋崎技師
(他にオホーツク総合振興局環境生活課、網走市市民部、同経済部、小清水町産業課が同席)

参加者

地域住民の皆様他計21名
報道機関6社

説明概要

1. 建物の設計

第3回目の住民説明会後の具体的検討によって修正となった点(湖側の屋根形状の変更、屋根裏の保守管理用通路の設置、資料展示室の工夫、管理ヤードの機能配置の変更)について平面図や立面図、パース等を用いて御説明を行いました。
また、地球温暖化対策として省エネを図るため、ヒートポンプ冷暖房の採用、太陽光発電システムの設置、LED照明の導入について御説明しました。

2. 展示関係

- 展示計画について、イメージ図等をお配りして御説明しました。
- この施設でのメインテーマを「環境と生命のかかわりを知る」とし、湧沸湖の特別性、地域の環境学習の2つをサブテーマとして、展示展開の考え方とその手法について御説明しました。手法としては、①生息環境とあわせて動植物を紹介する、②地域の人々の記憶を「湧沸湖を語る(本型展示)」「環境キーワード」として展開する、③ハンズオンアイテムを活用する、④書籍の配置と閲覧スペースを設置する、⑤地域の人等による展示公開スペースを確保するという手法を採用します。
 - それに基づき、展示の構成、ゾーニング、空間構成や具体的な展示手法について御説明しています。特徴としては、展示には視界を遮るような大型パネルは用いず、ヨシ原をイメージした人の胸の高さ以下の展示パネルとし、全体的にガラス越しに見える外部の景観を取り込む。また、地域の方々からヒアリングをしてお聞きした昔の湧沸湖に関する情報を、キーワードとして展示や柱、天井など様々な場所に配置する。資料展示室は、地域の方々が集めてきた実物資料を借用して展示し、地域住民と湧沸湖の関わりが分かるようなコーナーとする、等です。

3. 木道の位置

今回の施設からヒオウギアヤメの再生地を観察するための木道の整備を計画しています。木道については、環境への負荷の少ないがコストの高い工法であるピンファウンディング工法を採用することとし、第4回説明会でのご要望をお聞きした上で、予算の範囲内において整備することとしています。

また、木道の最終的なルートも、6月に植生調査を実施した上で、決定することを御報告しました。

4. アヤメの移植

ヒオウギアヤメについては、改変面積を大幅に小さくしたことで、移植対象数もかなり少なくなりましたが、その移植行程が課題になっていました。今回、5月の移植適期に、旧北浜小学校内の圃場に一時的に仮移植し、建築工事、外構工事などが終了した秋又は来春に湿地内に再移植すること、また、余ったアヤメの株については、きたはなプロジェクトなど地元事業で活用していただくことを御説明しました。

5. 鳥類調査

希少鳥類の調査について御説明しました。この調査は平成22年11月から23年3月にかけて、オジロワシ、タンチョウなど希少鳥類の行動調査の実施、専門家への聞き取り調査等を中心とするもので、23年度も春から夏にかけて調査を実施する旨を御報告しました。

6. 新施設の名称

施設の名称について、水鳥観察館、水鳥・湿地センターの2案をご提案し、地名についても、濤沸湖、湊沸湖、とうふつ湖の3案、計6つの組合せがあることを御説明し、「とうふつ湖水鳥・湿地センター」をご提案しました。

7. 今後のスケジュール

今後のスケジュールについて御報告しました。現地着工はアヤメの移植と水路の付け替えが5月頃のスタートとなり、以降、建築工事、展示工事、外構工事を進めて、24年度春のオープンを目指します。